

(別紙様式 2 - 2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和 6 年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 高松市立牟礼中学校
- (2) 所在地 高松市牟礼町牟礼 4 6 番地 2
- (3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	特別支援 学級	児童生徒数 計	教員
4 学級 1 2 2 名	4 学級 1 1 5 名	4 学級 1 2 1 名	4 学級 1 3 名	3 7 1 名	2 8 名

2 研究主題等

(1) 研究主題

なかまとともに豊かな心を育む道徳教育 ～自己を見つめ、互いに高めあう授業の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

本校の課題や特色を踏まえ、次の 2 点から研究主題を設定した。

- ① 校内で行っている学校生活アンケートでは、約 89%の生徒が学校が楽しいと感じている。一方で、自分にはよいところがある、自分の意見を述べることができる、話し合い活動に積極的であるなどの項目では、それぞれ全体の約 4 分の 1 の生徒が否定的な回答をしており、自己肯定感の低い生徒が少なくない。本校では 6 年前から人権・同和教育を主体とした教育課程を実施している。そこで、人権・同和教育で培われた互いに認め合う集団の中で、他者との対話を通して自分と向き合い、自分のよさに気づき、互いに高めあえる道徳の授業を目指したいと考えた。そのために、効果的に対話を取り入れた学習活動の工夫や、題材を自分事として捉えて考えを深められるような発問について研究し、教師の指導力の向上につなげたい。
- ② 本校は地域との結びつきが強く、地域の行事に積極的に参加する生徒が多い(約 55%)が、コロナ禍以前と比べると地域とのつながりが希薄になってきている。地域社会の一員として郷土について考える機会を設け、郷土を愛する心を育てたい。

(3) 研究内容及び方法

本校は令和元年より人権・同和教育の観点からなかまづくりを行っている。隔週の朝の会の時間に、3～4 人の小集団で行う「ほっとトーク」、体育祭や合唱コンクールの前後に、各クラスで円の隊形にして行う「クラスミーティング」、学期や学年の節目でなかまとつながることで成長したり変化した自分自身のことについて話をしたりする「学年団ミーティング」などを中心になかまづくりを進めている。対話のルールを確認しながら、話し合い活動を通して、自由に自分の思いをなかまに伝えたり、友達の思いを知ってその思いに共感したりすることで、誰もが居心地のいい学級・学校づくりを目指している。その学級・学校づくりを基盤に、全教員で道徳教育を行う。

① 校内研修の充実

- ・現職教育推進委員会を中心とした研究組織づくり

- ・授業参観のための時間割の工夫
 - ・授業検討の仕方の工夫
- ② 地域・保護者への情報発信と連携
- ・学校ブログでの発信
 - ・学年通信、学校通信での保護者との連携
 - ・地域の人材を活用した授業づくり
- ③ 対話を中心とした道徳科の授業づくり
- ・対話の形態、ルールの一貫
 - ・対話の質の向上（多面的・多角的に考えを深めるために）
 - ・発問の改善
- ④ 道徳教育を中心とした授業づくり
- ・人権・同和教育との連携
 - ・道徳的实践力を高める各教科の授業

3 研究実践

(1) 校内研修の充実

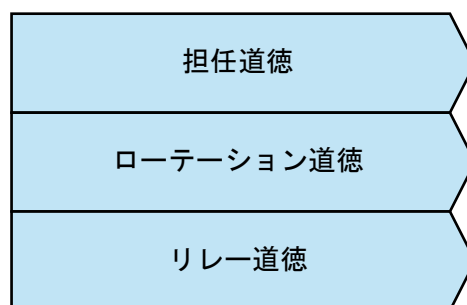
これまで道徳教育主任を中心とした各学年の道徳教育推進教員を研究の中心として、各学年で道徳の年間計画や授業を行ってきた。今年度は道徳教育を中心とした学校づくりのため、現職教育推進委員会を週1回時間割の中に設定し、研究の進捗状況や内容の検討を行った。現職教育推進委員会で検討することで、道徳の授業についてだけでなく、人権・同和教育や総合的な学習の時間との連携、教科の授業の中での道徳的価値について検討できるようになった。また、1学期の校内研修の時間に道徳教育の研究の視点や方向性について香川大学の植田和也教授にご指導いただき、授業実践につなげた。

本校では生徒が落ち着いて授業に取り組むことができるよう、学年ごとに一斉に道徳の授業を行っている。そのため、学級担任は他の教員の道徳の授業を参観する時間が取れず、授業検討をしたり、お互いにアドバイスしたりするのが難しい。また、放課後には部活動指導等があり、教員が集まって授業検討をする時間がほとんど取れないのが現状である。若年教員だけでなく全教員の指導力の向上のためにも、授業参観をしたり、授業検討をしたりする時間の確保が必要であると考えた。

① ハイブリッド型道徳の実施

今年度よりハイブリッド型道徳の実施を行った。ハイブリッド型道徳とは、担任道徳、ローテーション道徳、リレー道徳を組み合わせたものである。担任道徳は、教員1人につき1つ教材研究を行い、指導案、ワークシートなどの教材を共有して担任が道徳を行う。ローテーション道徳は、副担任が担任とローテーションしながら、1つの教材の授業を全クラスで行う（資料1）。担任は、自身の学級で副担任が授業をしている時間にその授業を参観し、評価や授業の改善につなげることができた。

牟礼中ハイブリッド型道徳



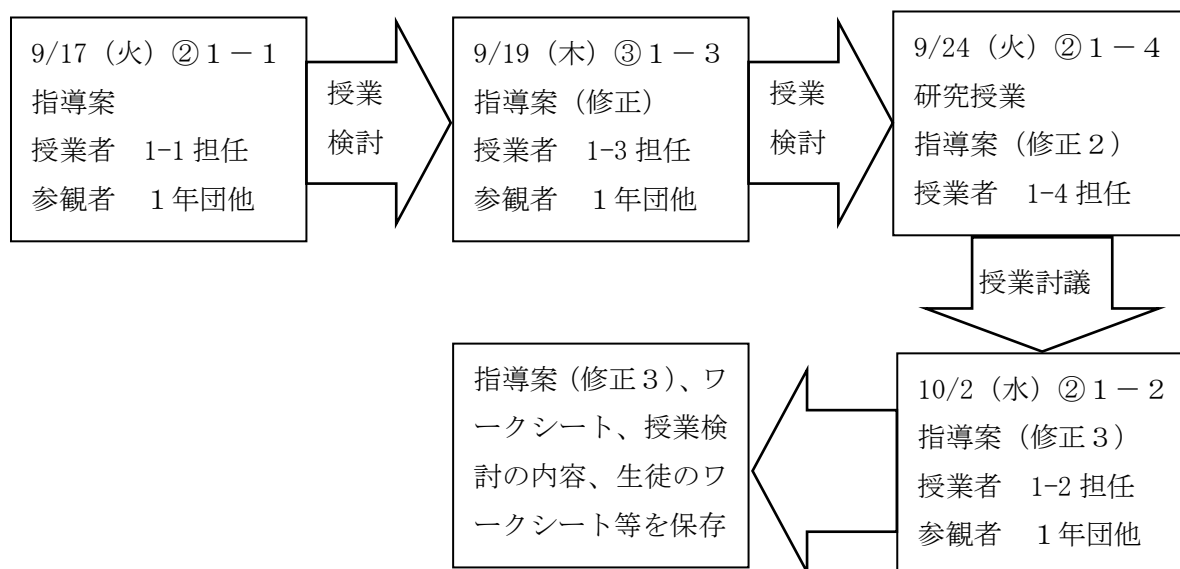
また、本校は毎年2学期に学年ごとの人権学習を行っており、その人権学習の中でリレー道徳を行った。学年の教員全員で夏休みに1つの題材について教材研究を行い、指導案を作成した（指導案1

～3)。その指導案をもとに1クラスずつリレー形式で授業を行った。時間割を変更して授業を行うため、他の担任が授業を参観し、指導案や指導方法を改善することができる。今年度は4回のリレー道徳のうち、3回目で研究授業を行い、外部指導者の方々に参観・ご指導いただいた。研究授業の検討で提案された改善点をもとに、次の学級で4回目の授業を行い、改善後の指導案を次年度に引き継いだ。(資料2)

資料1 ハイブリッド型道徳授業予定（担任道徳・ローテーション道徳）

	1組		2組		3組		4組		参観
	教材	授業者	教材	授業者	教材	授業者	教材	授業者	
5/16	A	担任1	A	担任2	A	担任3	A	担任4	
5/23	E	副担任1	B	担任2	B	担任3	B	担任4	担任1
5/30	B	担任1	E	副担任1	C	担任3	C	担任4	担任2
6/6	C	担任1	C	担任2	E	副担任1	D	担任4	担任3
6/13	D	担任1	D	担任2	D	担任3	E	副担任1	担任4
7/4	F	副担任2	G	担任2	G	担任3	G	担任4	担任1
7/11	G	担任1	F	副担任2	H	担任3	H	担任4	担任2

資料2 リレー道徳実施例



② 授業検討の仕方の工夫

授業検討の時間が取れないという問題点に対して、職員室内で空いた時間に検討を行うこととした。職員室内に学年ごとにホワイトボードを設置して、板書の写真を掲示した。参観した教員と授業者が、



職員室での授業検討の様子



職員室に貼った板書の写真

(2) 地域と連携した授業づくり

道徳の授業の様子は、学校ブログ、学年通信、学級通信により、授業後数日以内に保護者や地域に発信することを心がけた（資料2）。

(3) 対話を中心とした道徳の授業の実践

A photograph showing three students in a classroom setting. Two students are seated at a desk, focused on a project. One student is writing on a piece of paper with a marker, while the other looks on. A third student is partially visible on the right, also working. The desk is cluttered with various materials, including papers, a stuffed animal, and a small container. In the background, other students and a teacher are visible, along with a chalkboard and posters on the wall.

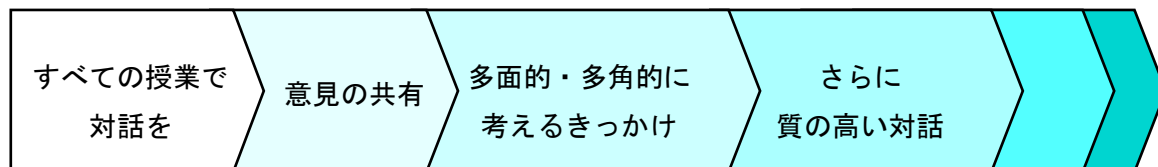
地域教材を使った授業の様子

資料2 学年団通信



中心に教材研究を行った。これまでも、対話を取り入れた授業形態をほとんどの道徳の授業で取り入れていた。しかし、多様な意見を知ることが主な目的としていたため、周囲の意見から自分自身の考えを深めるという点で、対話をさらに有効に活用できると考えた。本校では、隔週で「ほっとトーク」

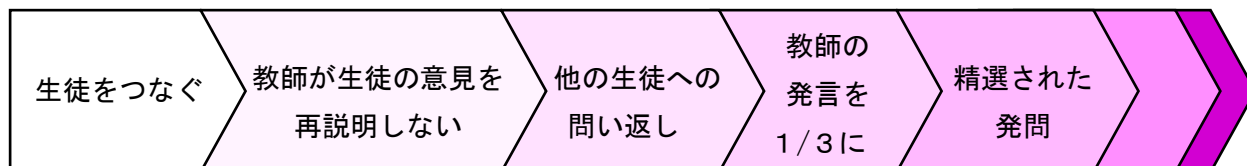
対話について教員が意識して取り組む内容



や「クラスミーティング」を行い、どの学級も素直に自分の気持ちを伝えることのできる雰囲気づくりに努めている。そこで、道徳の授業では対話を行うことをすべての教員が共通理解し、実践を開始した。次の段階では、意見の共有のみにとどまることなく、自分自身の考えを深めるという目的をもって対話を取り入れ、多面的・多角的に考えるきっかけとなるよう意識して取り組み、さらに質の高い対話を目指して授業研究を続けた。

発問については、教員が話す時間や細かな発問が多く、生徒がじっくり考える時間が十分に取れないという課題があった。これまでは生徒の意見を教員が吸い上げ、確認し、さらに問い返すという場面がよく見られた。今年度は、教員は生徒同士をつなぐ役に徹し、生徒の中から出てきた意見から別の生徒へ問い返したり、次の発問につなげたりすることを意識した。教師が話す時間を3分の1程度に減らし、発問を精選すること、少ない言葉で考えが深まる発問を工夫することを全教員が共通理解し、取り組んだ。

発問について教員が意識して取り組む内容



3 研究の成果と課題

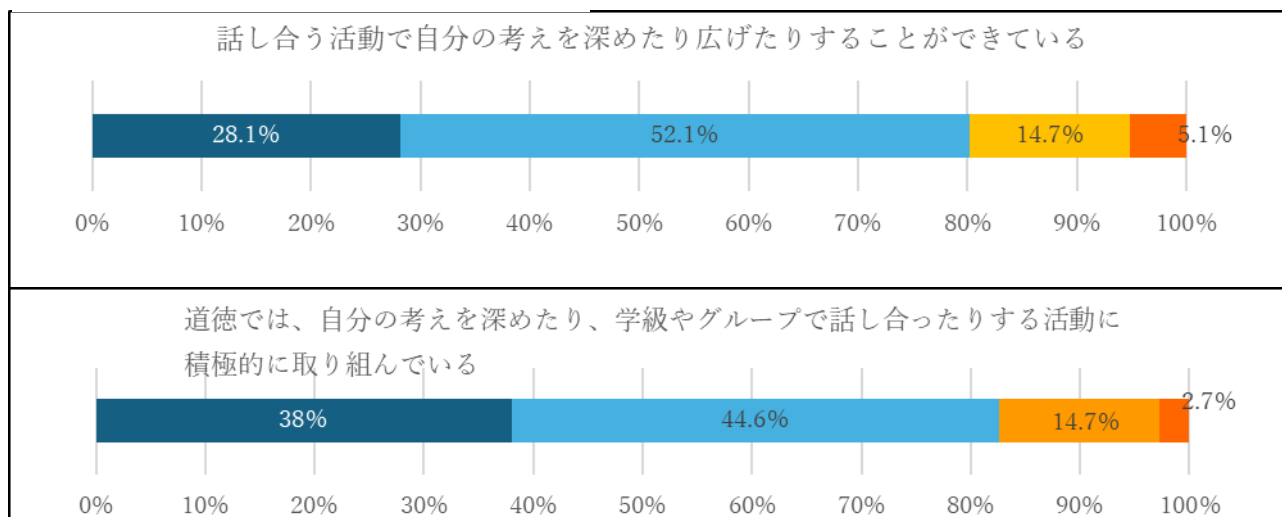
今年度の研究推進によって、生徒主体の道徳の授業への転換と効率のよい教員研修・授業研究体制を構築することができた。教員が授業中に説明する時間を減らし、個々に生徒が考えや意見を述べる時間など、生徒間の交流の時間が増えた。道徳の授業は、教科の授業での対話と違い、すべての生徒が自分の体験や考えを述べるができる。それをなにかに受け入れられたり、認められたりすることが、自己有用感につながっていると考えられる。生徒アンケートでは、自分の意見を述べるができるかという質問に4分の1程度の生徒はあまり積極的ではないと答えており、昨年度と同程度であったが、「話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりすることができている」、「道徳では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に積極的に取り組んでいる」に対して肯定的な回答が8割を超えた。自分の意見を述べることが得意ではない生徒も、道徳の授業の話し合いに参加し、しっかり考えたり、話し合ったりできるようになっていると考えられる。保護者アンケートでは「道徳的な心が育っていると思いますか」という質問では、肯定的回答が9割を超え、保護者からの評価も高い。また、約85%の教員が「道徳の授業は、共通理解を図りながら計画的に行っ

ている」と答えた。道徳教育推進教員を中心に、全教員が共通理解しながら授業研究を行い、対話を意識した道徳の授業ができていると考えられる。

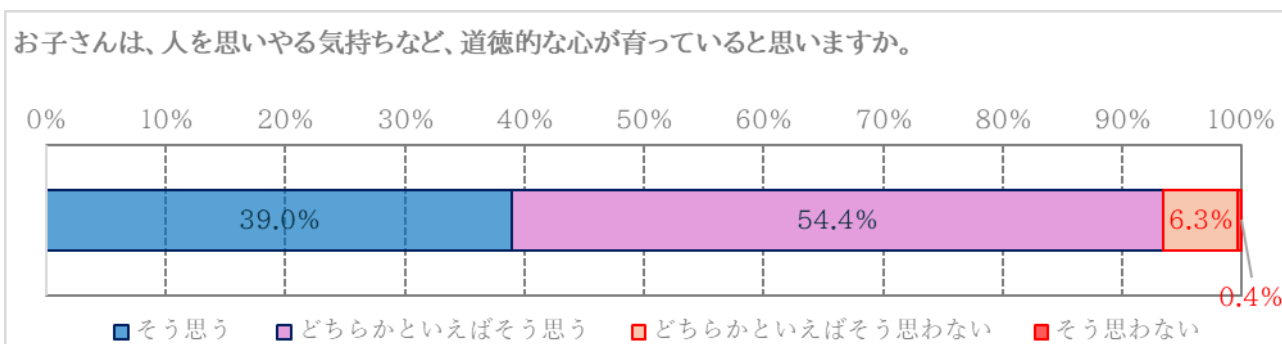
一方で、教員からは普段の生徒の発言や行動から、「時間をかけて研究し、道徳教育を行っているが、学んだことが実生活に生かせていない」などの意見もあった。すべての教育活動を通して体験したことを道徳の授業で考え、深化させることで、道徳的な実践につなげるため、現職教育主任を中心に、道徳以外の各教科の授業でも、道徳的価値を意識した授業実践を目指して研究を進めている。今年度は特に1年生の総合的な学習の時間のふるさと学習との連携を軸として研究を行った。総合的な学習の時間に学んだことを、道徳の授業で道徳的視点をもって考え、実践化への意識を高めたことで、地域ボランティアの活性化など、実践につながった。今後は、発問や対話などを軸とした道徳の授業研究を深化させるとともに、他の教育活動を通して道徳的な思考力・判断力を実践できる生徒を育てていきたい。

中学校の現場では教科指導、生活指導だけでなく、部活動指導、進路指導など、多岐にわたる指導や課題が山積しており、教員は常に多忙感を抱えている。それに加えて増加する若年教員等の指導力の向上も喫緊の課題である。過年度に研究・実践した成果を指導に生かすため、今年度研究した授業の指導案などを系統的に次年度に引き継げるよう、保存場所を決め、生徒のワークシートを含めた資料を全教員が閲覧できるようにした。来年度はその資料を参考に、改善を加えながら授業研究を進めていく。十分な時間が取れない中で授業の質を上げ、生徒の道徳的な実践力をつけるために、研修の視点を絞り、効果的で効率の良い授業研究や校内研究の方法もさらに工夫を重ねていきたい。

生徒アンケートより



保護者アンケートより



第 1 学年 4 組 道徳科学習指導案

1 日時 令和 6 年 1 0 月 2 日(水) 5 校時

2 題材 「なおしもん」(光村図書『きみがいちばんひかるとき』)
【C (1 6) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】

3 題材について

(1) 本題材は、「郷土の伝統と文化の尊重」を取り扱っており、生徒が郷土の伝統と文化を大切にして社会に貢献した先人たちに畏敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、その発展に努めることを主なねらいとしている。

伝統・文化は「モノ」自体が後世に受け継がれるのではなく、人々の生活に密着しながら、それに関わる職人の想いや願いも同時に継承されることに気付くことができる。対話を通じて、多面的・多角的な観点で生徒自身が地域の一員として、牟礼町の伝統や文化に慣れ親しんでいく方法を考えることができるのではと考え、本題材を設定した。また本校では、「総合的な学習の時間」の一環である「ふるさと学習」で、地元の牟礼町で身近に伝統や文化と関わりながら働く人々の想いに触れることができる。その貴重な体験と本単元を関連させることで、郷土をより身近な存在と捉え、郷土に対する誇りや想いを深めることでそれを愛することが期待される。

(2) 本学級は、計 32 名のクラスである。6 月に行われた学校生活アンケートによると、「今住んでいる地域の行事に参加している。」と回答した本学級の生徒の割合は約 68%であるのに対し、学年平均は約 79%であった。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」の問いには、本学級の約 78%の生徒が地域と前向きに関わっていきたいと考えている一方、学年平均は約 66%だった。

また本学級は、比較的穏やかな生徒が多く、落ち着きがある傾向にある。「道徳では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に積極的に取り組んでいる。」という問いに、本学級の約 9 割の生徒が肯定的な回答を示している。そのため、他人の意見に理解を示し、受容的な風土が醸成されていると考える。

(3) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』では、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」を目標としている。その学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、次の点に留意して指導を行いたい。

- ・身近な場面を設定(牟礼町と関わる職人の想い)することで、生徒が郷土をより身近な存在と捉え、郷土愛について理解させたい。
- ・少人数制の対話活動を行い、互いに話しやすい雰囲気作りを目指す。
- ・「職人の郷土への想い」を理解する際に、総合的な学習の時間で共有した牟礼町のよさを再確認することで、生徒が郷土に愛着をもち、主体的に関わろうとする態度を身に付けさせる。

4 本時の学習指導

(1) ねらい 重要無形文化財の輪島塗に関する題材を通して、生徒が郷土(牟礼町)に根ざした伝統と文化を大切にしていこうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 準備物 教科書、ワークシート、掲示物、ホワイトボード、マーカー

(3) 学習指導過程

時間	学習活動 主な発問・予想される生徒の反応	指導上の留意点
3 分	1 「日本の伝統」や「日本の文化」についてどのようなものがあるのか確認する。 ・寿司 ・アニメ ・浮世絵 ・着物 ・畳	・生徒全員に聞いていき、多様な意見を引き出す。
15 分	2 「なおしもん」の範読を聞き、職人の気持ちについて考える。職人が「漆器をしまっておくよりも、毎日使って欲しい。」と願う理由を考える。 ・漆器に愛着をもってほしいから。 ・漆器を毎日使用することで、その良さを分かってほしいから。 ・伝統がいつまでも受け継がれてほしいから。	・視覚的に分かりやすくするために範読後に、登場人物の写真を掲示する。 ・受け継がれてきたものには、職人の手がかかっていることや、想いが込められていることを意識させる。 個人→ペア→全体 ・職人の想いを深く理解するために、「修理し、何度でも使ってほしい…」という文に注目させ、なぜそこまでして使ってほしいのかを考えさせる。 ペア→全体
10 分	3 自分が住む地域の特色について振り返り、考える。 自分の地域にある伝統や文化を大切にしていこうということはどういうことだろう。 (1)ふるさと学習で学んだ、「牟礼町の魅力に関わる人々」は、どのような想いをもって仕事をしていたのかを振り返る。 ・牟礼町の魅力を知ってほしい。 ・牟礼町の魅力を守り続けたい。 ・自分も相手も楽しむようなものを生み出したい。	・ふるさと学習で調べた職人の想いを、短冊(A3 縦半分の大きさ)に事前に記入しておき、キーワードに線を引いておく。 ・伝統・文化を生徒の身近なものだと気づかせるために、牟礼町の魅力に関わる人々の想いと「なおしもん」との共通点を考えさせる。 ペア→全体
15 分	4 郷土のために自分ができていることを考える。 「牟礼町の魅力に関わる人々の想い」を学んで、自分は牟礼町とどのように関わればよいのだろう。 (1)牟礼町の文化や伝統との関わり方について考える。 ・地域の行事に積極的に参加する。 ・地元に住み続ける。 ・地元で働く。 ・地元のうどん屋やパン屋に通う。 ・伝統継承に携わってみたい。 ・SNS で牟礼町のオススメスポットを紹介する。 ・コミュニティセンターに、店の情報を掲載してもらう。	★未来に向けての考えを出すために、10年後、県内に住むか、県外に住むかの立場を明確にさせる。 個人→班→全体 ・県内でも県外でも、地元の伝統や文化には間接的にも直接的にも関われることに気づかせる。
5 分	5 本時の授業を通して、「伝統や文化」について考える。 ・伝統や文化は自分たちとは遠いものだと思っていたが、実際は身近なものだと分かった。	・生徒がワークシートに自分の考えを記入する。

(4) 評価 生徒が郷土に根ざした伝統と文化を大切にしていこうとする実践意欲と態度を育てられたか。

第 2 学年 2 組 道徳科学習指導案

1 日時 令和 6 年 10 月 2 日（水）5 校時

2 題材 「桃太郎」の鬼退治（光村図書「中学道徳 2 きみがいちばんひかるとき」）
【B（9）相互理解、寛容】

3 題材について

- （1） 中学校 2 年生になると、ものの見方や考え方が確立するとともに、自分の考え方や意見に固執する傾向がある。また、自分と他者の考えや意見の違いを恐れたり、考え方の違いから友人関係に摩擦が生じたりする。一方で、安易に他の意見に同調し、現実から逃避したり、自分さえよければよいという考えをもったりする時期でもある。そのため、考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うことについて考えることで、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相互理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとする心情を育てたいと考え、本題材を設定した。

本教材は、昔話の「桃太郎」で構成されており、考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うことについて考えることができる教材である。また、動画「桃太郎裁判」では、桃太郎の行った行為が鬼たちの立場からするとどのようにみえるかを考えることができる教材である。桃太郎と鬼の両者の立場を十分に理解させ、歩み寄る気持ちをもたせたうえで、考えさせることで、自分と異なる考えをもつ人の存在を知り、理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接する心情を育てたい。

- （2） 本学級の生徒は、相手の立場を考えることが苦手な面があり、他者の意見を尊重することや、異なる視点を受け入れることに対して、まだ十分な経験やスキルをもっていない様子が見られる。しかし、なかまに対して思いやりをもち、協力し合う場面も多く見られる。一方で話し合い活動においては、積極的に参加し、自分の意見を述べるだけでなく、他の生徒の意見にも耳を傾けようとする姿勢が見られる。このようにクラスメートとのコミュニケーションを通じて、より良い関係を築こうと努力し、相手の立場を理解する力を少しずつ育てている。相手の立場を考えることがまだ十分ではないものの、仲間に対する思いやりや協力の精神をもち、話し合い活動に意欲的に取り組む姿勢を育てていきたい。

- （3） 生徒の問題意識を高め、主体的に考えるための指導方法の工夫を通して、道徳的価値への理解を高め、ねらいに迫りたい。生徒たちが他者の立場を理解し、共感する能力を育むことために、「ふきだしくん」を活用した指導を通じて、生徒たちの共感力やコミュニケーション能力を高めたい。対話をする際に「ふきだしくん」を使って意見をまとめることで、他の生徒たちもその意見を視覚的に理解しやすくし、生徒たちの話し合い活動への意欲を高めていきたい。また、生徒たちが安心して意見を述べられる環境を整えるために、全ての意見を尊重し、否定的な反応を避けるような指導を心掛けていきたい。

また「ロールプレイ」を行い、相手の立場を理解したり、違った視点に気付いたりするためことを促したい。

3 本時の学習指導

(1) ねらい

考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うことについて考えさせ、相互理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとする心情を育てる。

(2) 準備物 掲示用カード、動画「昔話法廷」(桃太郎)、タブレット、ワークシート

(3) 学習指導過程

時間	学習活動 主な発問 ・予想される生徒の反応	指導上の留意点
2分	1 桃太郎伝説を振り返る。	・物語の最後が「めでたし」で終わることを確認する。
5分	2 人物像を確認する。 (1) 桃太郎の人物像を捉える。 ・正義の味方 ・勇気がある人 ・勇敢なヒーロー (2) 鬼の人物像を捉える。 ・村人の財宝を奪った ・悪人 ・怖い	・桃太郎と鬼の人物像が視覚的に分かるように、登場人物のイラストと人物像を黒板に掲示して確認する。
3分	3 「昔話法廷」を視聴する。 「起訴状朗読」「罪状認否」 ・容疑者「桃太郎」 ・被害者「鬼」	・鬼退治が、実は犯罪に関わるものであったことに気づかせる。 ・鬼と桃太郎の関係性に着目させる。 ・それぞれの立場を個人で考えさせ、その後ペアで振り返らせる。 個人→ペア ・ワークシートを配布する。
15分	4 主題について考え、意見を交流し、結果を発表する。 どうすれば本当の「めでたし めでたし」になるのか？ (1) 「桃太郎と鬼はどうしたらよかったのか」 ・鬼にも、何か事情があるのではないかと想像しないとイケないな。 ・分かり合うためには話し合うことが必要だな。 (2) 全体で共有する。	・異なる立場や考えの者同士の相互理解のために必要なことについて、それぞれの立場から考えさせる。 ・「めでたし」で話が終わるようにするにはどうすればよいか考えさせる。 ・個人の意見を「ふきだしくん」を使って共有し、思ったことを発表させる。 個人→全体 ・意見を書き出せない生徒には他の意見を参考に考えてみることを促す。
10分	5 ロールプレイをする。 桃太郎と鬼の立場に分かれ、実際にペアで話し合い、感じたことを話し合う。	・複数のペアには、全体の前で実演させる。 ペア→全体 ・桃太郎側と鬼側の両方の立場に立って、感じたことを発表させる。 個人→全体
5分	6 日常を振り返る。	・実生活における同様の場面を考え、自分ごととして捉えさせる。
10分	7 本時のまとめをする。 教師の語りを聞く。	・考え方が異なる者が、互いに理解し合うにはどのような心構えが必要なのか考えさせる。 ・ワークシートに振り返りを記入させ、全体で共有する。 個人→全体 ・一方的な見方ではなく、多面的な視野をもって相手の立場に立って多角的に考えることが大切であることをおさえる。

(4) 評価

考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うには、相互理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとするのが大切であると考えることができたか。

1 日時 令和 6 年 10 月 2 日（水）5 校時

2 題材 「ぼくの話 あなたの物語」（光村図書「中学道徳 3 きみがいちばんひかるとき」）
【C（11）公平、公正、社会正義】

3 題材について

- （1） 差別や偏見は自分たちが思っている以上に、日常生活に紛れ込んでいる。自分たちは差別や偏見はしていないと考えている生徒も多く、差別問題は対岸の火事であるという考えがちになってしまう。しかし、ちょっとした偏見や差別心が自分の中にあることに目を向け、一人一人が人権差別問題は自分ごとであると考えなければならない。

本教材では、相手や自分のほんの一部分だけの表面的な事柄に目を向け、「それは本当の物語ではない」という部分がある。人と関わる際に目を向けるべきことは、表面的な一部分ではなく、相手の過ごしてきた人生や、人間としての内面であるという、作者の人権差別問題についてのメッセージを通して、差別や偏見のない社会を築くために大切な心について考えさせ、公平公正で社会正義に基づいた行動をとっていかうとする判断力を育てたい。

- （2） 本学級は、計 31 名である。本学級の生徒は、真面目な生徒が多く、学習や委員会活動、部活動など、多岐にわたり熱心に取り組んでいる。その反面、意見を共有する場面では自分の意見を言えなかったり、相手の意見に対して真っ向から否定したりすることから、話し合い活動を苦手としている生徒も多い。また、学校生活アンケートの「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に積極的に取り組んでいる。」、「自分の考えが伝わるように工夫して発表している。」の項目では、約 30%の生徒が、「どちらかといえば当てはまらない」と回答しており、話し合い活動に消極的な生徒が在籍していることがうかがえる。

「いじめはどんなことがあってもいけないことである」という項目では、ほぼ 100%の生徒が、あてはまると回答している。しかし、うわさ話や他人の意見に流されてしまう生徒も多く、間違っていると分かっているが、行動してしまう生徒もいる。自分が知らず知らずのうちに相手に対して差別や偏見をしてしまっている現状が見られる。

- （3） 本時の指導にあたっては、差別や偏見のない社会を築くために大切な心は何かを考えるきっかけとしたい。そのために、一見差別をしていないように思える自分たちの行動に差別的な言動がないかを事例を踏まえて確認させ、相手の一面だけを見て判断したり、一部分のみを切りとって否定したりと、「本当ではない物語」を見ていないか、自分の行動を振り返り、今後の言動を改善していけるように努めさせたい。

また、話し合い活動の留意点として、話し合い活動が苦手な生徒も参加しやすいように、少人数の話し合いからスモールステップで学級全体への共有につなげていきたい。また全体交流では、全員の意見を認めたうえで、意見についての話し合いを行ったり、個人の意見をつなげたりして、より深い学びにつながるようにしたい。

4 本時の学習指導

- (1) ねらい 差別や偏見のない社会を築くために、大切な心について考える。
- (2) 準備物 教科書、ワークシート、パワーポイント、筆記用具
- (3) 学習指導過程

時間	学習活動 主な発問 ・予想される生徒の反応	指導上の留意点
5分	1 身の回りにはどのような差別や偏見の問題があるか意見を出し合う。 ・男女差別 ・障がい者差別 ・人種差別 ・性的少数者に対する差別 ・高齢者差別 2 写真を見てアメリカ人は誰かをクイズ形式で答える。	・日常生活の中にある具体的な差別や偏見を想起させる。 グループ ・自分たちは日常的に差別や偏見をしていないといえるか事例を踏まえて揺さぶる。
20分	3 「ぼくのお話 あなたの物語」を読んで考える。 ① 作者が本当の物語でないと考えているのはどのようなことを考える？ ・相手の一面だけを見て判断すること。 ・見た目だけを見て判断すること。 ・人の意見や噂で判断すること。 ② なぜ他人の物語を勝手に作ってしまうかを考える。 ・相手を理解すること。 ・話をしてみても判断すること。 ・人の意見や噂に流されないこと。	・教科書 P88 の本当の物語ではない物語の例を参考にして考えることを伝える。 個人 ・自分の中に人の上に立ちたい人間としての弱さがないかを考えさせる。 ・2人組で本音はどう思っているのか自由に話合わせることで自分のもつ差別心に向き合わせる。 ペア
15分	4 2人組できれいごとではなく本音で差別心について話し合う。 5 主題について考える。 差別や偏見のない社会にするために大切なことは何だろう。	・その場のみでの話であることや秘密を守ることなどルール決めを行う。
	・外見だけでその人を判断してはいけない。 ・相手をよく知りもしないのに、噂や間違った知識で判断してはいけない。 ・まずは相手のことを知ろうとする姿勢が大事。人間に優劣をつけようとするのが間違っている。	・3～4人の小グループでの話し合いを行い、話し合い活動が苦手な生徒でも積極的に話し合いに参加できるようにする。 個人 ⇒ グループ
10分	6 今日の授業を振り返って感想を書く。 ・すぐに差別や偏見はなくならないかもしれないけれど、無くしていこうとまずは意識することが大事 ・自分の心の中にも誰かの上に立とうとする気持ちがある。人と比べるのではなく、その人にしかない良さを見つけた。	・授業を通して、自分たちの日常的な発言や行動を振り返り、自分本位に人を傷つけたり、差別につながるような発言・行動をしたりしていないかを振り返らせる。 個人

- (4) 評価 差別や偏見のない社会にするために、大切な心や自分にできることを考えることができたか。